若手の院生・研究者（留学院生）の研究スタイル

郭　芳（同志社大学留学生特任助手）

１．自分の研究生活を振り返って：自己紹介を兼ねて

◆2005 年 3 月～2006 年 4 月　福島大学行政政策学類一年間交換留学

授業の聴講で社会福祉に関心を引いた。

◆2008 年 4 月～2010 年 3 月　福島大学大学院地域政策科学研究科修士課程

事実上の研究生活は始まったが、生半可な日本語で一から社会福祉を勉強するので、「研究」ではなく、自分の関心テーマを「勉強」したと言える。研究のテーマについて、自分は農村出身のため、最初から中国農村の高齢化問題に注目した。修士課程では「中国農村の高齢者福祉施設の現状と課題」という題目で論文を書いた。

◆2010 年 4 月～2014 年 3 月　同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程

修士課程が終わったら、中国農村の高齢者福祉施設の現状と課題を明確にしても問題解決にならない。そして、中国より先に高齢化社会になった日本の高齢者福祉対策や福祉サービスをどのように活用したらよいかを究明したく、博士後期課程に進学した。

本当の意味上の研究はここから始まった。４年間をかけて、問題意識に沿って研究内容と研究目的を何回も整理し、「中国農村地域における『村宅老所』サービスモデルの構築―日本の小規模多機能ケアを参考に」の博士論文を書いた。

２．現在の研究テーマ

博士論文の修正段階で、中国政府は積極的に民間資本や外国資本の介護分野への参入を推し進めはじめた。それを機に、日本の介護事業者は中国の介護市場に進出してきた。博士論文で構築したサービスモデルの実現には市場原理の導入、民間の力の活用を構想した。しかしながら、果たして民間介護事業の中国での展開が可能かは今後の課題として残された。

日本の介護事業者の中国での実践を参考にすることで、その経験から、中国における民間介護事業の発展の可能性を見出していくことができるのではないかと考え、現在は「中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの国際的評価」という研究課題に取り組んでいる。

３．これまで苦労したことや工夫したこと

苦労したこと

日本の社会福祉特に地域福祉に関する知識の把握

自分の研究テーマと似る研究の発見

統計調査の分析方法

工夫したこと

問題意識を明確したら速く研究を進めること

研究会と学会を多く参加すること（他の研究者と交流すること）

４．後輩へのアドバイス

自分のやりたい研究テーマを粘り強くやっていくこと